

わが社の運輸安全マネジメントの取り組み

第 64 期（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）

山梨総合運輸株式会社は、経営トップをはじめ全従業員が輸送の安全の重要性を深く認識し、安全最優先で取り組んでまいりました。昨年度、重大な交通事故の発生はありませんでしたが、車両後方の接触による軽微な事故が 3 件発生いたしました。この結果を真摯に受け止め、「輸送の安全に対する基本的な方針」に基づき、実技訓練の機会を更に拡大させることで、より一層安全な輸送を実現すべく全従業員が一丸となって取り組んでまいります。

1、わが社の輸送の安全に対する基本的な方針

後方事故を根絶する！

- (1) 毎月 2 回の安全研修会開催を継続
- (2) 初任乗務員の運転訓練を 6 か月間継続
- (3) 健康起因事故の防止

2、輸送の安全に関する目標

1) 交通事故の減少目標

項目	2026 年度目標	2025 年度実績
人身事故	0 件	0 件
物損事故	0 件	0 件
自損事故	0 件	0 件

2) 輸送の安全に対する計画と投資（目標：300 千円）

- ① 後方確認の実技訓練をメインとした安全研修会を、毎月第 2・第 4 土曜日に開催する。全乗務員は年間 12 回以上参加する。
- ② すべての安全研修会において、後方確認に関する KYT 活動を行う。
- ③ 初任乗務員は、初任研修終了後から 6 カ月間、運行終了後に月 1 回の運転訓練を行う。
- ④ 安全運転につながる燃費向上のため、月ごとに対象者を選び、乗務指導職による個別指導を週 1 回、1 ヶ月で計 4 回受ける。
- ⑤ 安全運転につながる燃費向上のため、専門機関による運転訓練を年 2 回実施する。対象者を選定し、延べ 20 名が受講する。
- ⑥ 50 歳以上の全乗務員に対し、脳ドックを実施する。（費用 300 千円 / 人数 15 名）

3、安全に関する反省事項

発生した 3 件の事故は、後方確認不足によるものでした。その原因を検証した結果、バックアイカメラに頼りすぎてしまい、本来行うべき後方確認が習得できていませんでした。

4、反省事項に対する改善方法

バックアイカメラに依存しない運転技術を習得することで、本来行うべき後方確認の徹底を図ります。具体的には、バックアイカメラを意図的に遮断した状態での入庫訓練や、後退を開始する前の適切な車両位置の確保（位置取り）に関する実技訓練を実施いたします。

5、事故に関する統計（自動車事故報告規則第 2 条に規定する事故）

2026 年度・・・0 件の達成

2026 年 4 月 1 日
山梨総合運輸株式会社
代表取締役 樋口恵一